



岩手県大船渡市で行なわれたコープあいちの組合員と地元の団体との交流の様子。手作り品を囲んで、製作した思いなどを分かち合う。

# 被災地で作られた商品を、 全国で利用し、復興を支援する

被災地では、被災したメーカーや生産者、個人の経済的復興が大きな課題となっている。  
そうした中、全国の生協で「買って支える」取り組みが広がっている。

## 復興支援商品を 全国で取り扱う

2012年11月22日～25日、エフコープ・新宮店（福岡県福岡市）にて、「被災地応援セール」が開催された。このセールでは、「がんばろう東日本」のロゴが付けられたコープ商品をはじめ、被災地のメーカーや生産者に関連した商品が供給された。そうした商品の中に、日本生協連が呼び掛けている「商品供給を通じて復興を応援する取り組み」の商品もあった。

このセール企画は、発災から2年を迎える今年3月から、「今後も全国でつながっていくこと」をテーマに、全国の生協で本格的に取り組まれる予定だ。新宮店での供給は、このプレ企画として行なわれたもので、今回、コープ九州事業連合では新宮店を含め、会員生協の16店舗で開催された。

この企画で取り扱う商品は、岩手・宮城・福島の各県の生協から推薦された商品の情報や取引関係を日本生協連が取りまとめ、「全国商品事業委員会」の場などで全国の生協に提示。全国の生協は、その中から「復興応援フェア」などの営業企画に取り入れることができる。

日本生協連では、商品情報の提供とともに、被災地メーカーと直接取引



日本生協連・東北支所  
支所長スタッフ 清水 徹

きが困難な全国の生協の間に入り、他の流通ベンダーの現地支社とも協力しながら商流・物流の調整をする役割を担う。この調整のためにサンネット事業連合・店舗商品部に駐在している、日本生協連・東北支所支所長スタッフの清水徹は、

「これまでも、バザーやイベントなどで被災地の商品を一時的に販売することはありませんでしたが、事業として継続して取り扱うとなると、受発注・物流のシステムの関係上、取引先コードや口座など、整備しなければならぬことが数多く出てきます。ここに日本生協連が関わることで、注文・納品・代金支払いまで、スムーズに安心して商品を取り扱っていただけます」と話す。

商品のリストが提案される全国商品事業委員会は2カ月に1回のペースで行なわれる。

「昨年8月に、最初の提案をしたときは55品でした。10月には13品目を追加、12月にはさらに4品目増えました。全国に供給できる商品をもっと増やして

いき、さまざまな被災地の商品が全国に行きわたるための仕組みづくりにより力を入れています」(清水)



「真崎わかめ」(岩手) 田老町漁協  
「ふかひれ濃縮スープ」(宮城) 気仙沼ほてい株式会社  
「えごまドレッシング」(福島) 内池醸造株式会社

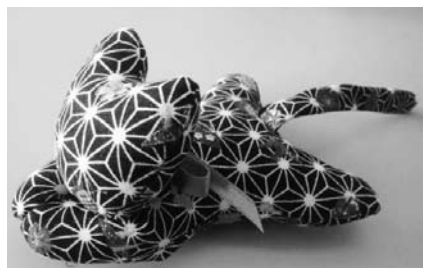
「商品供給を通じて復興を応援する取り組み」で扱う商品の一部。

## 被災された方々の手作り商品を販売しよう

現在、被災地では、被災された方々の生きがいづくりや収入確保のため、手作りの商品を販売する取り組みが行なわれている。全国の生協では、商品を宅配やバザーなどで供給することで、被災地を応援する活動が広がってきている。その一部を紹介する。

## いわて生協

いわて生協では、仮設住宅に住んでいる人や被災地の福祉施設の手作り商品を購入し取り販売する取り組みを11年度から進めてきた。全国の生協にも手作り商品の情報を発信し、販路を県外につくる応援も行なっている。これまでに、生協共立社、おおさかパルコープ、コープとうきょう、コープかがわ、コープあいち、大阪いずみ市民生協、コープかながわ、鳥取県生協、京都生協、コープとやまが、組合員活動や店舗、宅配で供給を行なった。商品リストは、いわて生協に問い合わせれば送ってもらえる。



大船渡中学校仮設住宅にお住まいの方が作った商品、「つかむにゃん」。前足でさまざまな物がはさめる。

復興プロジェクト「かけあしの会」の商品「宮古の塩ストラップ」。塩をつめる作業を、被災された方が行なっている。

いわて生協商品リストの商品の一部。

## みやぎ生協

みやぎ生協では、「手作り商品カタログ」を作成し、12年11月28日より全国の生協に配布を行なっている。このカタログには、県内の被災者の生活再建に取り組む団体や、震災で仕事や販売

先を失った福祉施設など計24団体、67品の手作り商品が並ぶ。注文は、カタログを見た人が直接、生産団体、生産施設に連絡する仕組み<sup>※2</sup>。カタログは、各生協最大30部ずつ配布中だ(12年12月現在)。



1ページに1団体ずつの商品が紹介されている。



カタログ表紙。

※1 問い合わせ先:いわて生協組織本部 小野寺 真さん(sn.i02810so@todock.jp)。  
※2 問い合わせ先:みやぎ生協ボランティアセンター (FAX 022-218-3663またはメールsn.mfukushinet@todock.jp)。



## コープあいち

コープあいちは、12年11月9日〜11日に、第11回「学びと交流」三陸気仙ツアーを行なった。このツアーは、コープあいちの組合員が岩手県気仙地区（陸前高田市や大船渡市など）を訪れ、被災状況を見たり、また、現地の方との交流を行なうものだ。この交流を通して、「被災地から遠く離れた愛知県で、被災地のために自分には何ができるのか」を考えることができる



ツアーでの交流の様子。グループごとに分かれ、じっくりと各団体の話を聞くことができた。

ツアーでの交流の様子。グループごとに分かれ、じっくりと各団体の話を聞くことができた。組合員さんが駆け付け、岩手で感じたことや被災された方から託された思いを語ってくれます」と話す。

ようなプログラムが組まれている。ツアー2日目は、大船渡市赤崎町にある漁村センターで、被災地の市民団体や手作り品を制作する団体（以下、手作り団体）との交流が行なわれた。組合員は五つの班に分かれて、被災地の団体とじっくり話す時間を持ち、被災から現在に至るまでの経過や、現状についてのヒアリングを行ない、今後、被災地で必要とされる物・事などについて共に考えていった。

コープあいちでは、この日交流した

手作り団体の商品をこれまでもさまざまな場所で販売してきた。大船渡市の商店街からの依頼を受け、手作り団体から商品を買取って同市内の祭りや行政・地域のイベントにて販売したこともあった。コープあいち・被災地担当の岩本隆憲さんは、「イベントのたびにツアーに参加した組合員さんが駆け付け、岩手で感じたことや被災された方から託された思いを語ってくれます」と話す。

## 最後に

このほかにも、手作り品をイベントなどで販売する取り組みは全国に広がっている。多くの生協での取り組みが今後も広がっていくことを期待したい。手作りであることを考慮し、納品の締め切りに余裕を持たせた発注を行う



コープあごしま「笑顔いっぱいフェスタ」(主催:麦の芽福祉会など)の様子。岩手の手作り品を販売。



鳥取県生協「せいきょうまつり」の様子。岩手の手作り品を販売。

なったり、宅配で取り扱う場合は、多少の遅延への理解を呼び掛けたりと工夫が必要となってくるだろう。東日本大震災による多大な被害を受けた被災地の産業復興、地域経済活性化や雇用確保には、まだまだ時間がかかる。「買い支える」ことで、これからも被災地を応援し続けたい。



ならコープでは、毎月10日前後に店舗で「東北お手伝いショップ」を企画し、宮城の手作り品を販売。



パルシステム東京は「エールフェスタ」(主催:全労済東京都本部)に参加し、福島(写真)・岩手・宮城の手作り品を販売。